

日本公認会計士協会

# 北部九州会

<http://n-kyusyu.jicpa.or.jp/>

2016.01

222  
号



平成28年  
新春のつどい



九州実務補習所入所式



# 狂気の戦場ペリリュー島

副会長 廣瀬隆明

Takanaki Hirose

昨年はアジア太平洋戦争終結70年の節目の年でした。そこで、慰霊と戦跡めぐりを目的として11月末から12月初めにかけてパラオ共和国のペリリュー島やアンガウル島などを訪問してきました。4月には天皇后陛下がペリリュー島を訪問されましたが、その時に両陛下をご案内された方がたまたま3日間私の案内をしてくれました。

## パラオ共和国

パラオ共和国はフィリピンの南西に位置しており、大小およそ200の島々からなっていますが、実際に人が住んでいるのは10島くらいようです。私は成田から直行便で行きましたが、フライト時間は約4時間でした。面積は総計458 km<sup>2</sup>で屋久島とほぼ同じで、人口はおよそ2万人です。

1920年（大正9年）に国際連盟から日本の委任統治が認められると日本はインフラ整備や農業開拓、リン鉱

石の採掘、現地人への教育などに力を入れ、1922年（大正11年）には南洋庁を置いて周辺諸島の中核的な島となりました。昭和18年には人口およそ35000人のうち内地出身の日本人が25000人ほどいたようです。

## ペリリュー島とアンガウル島

ペリリュー島はパラオ諸島の南西の端にあり、パラオ本島からモーターボートで約1時間かかります。アンガウル島はそこからさらに30分ほど先に位置しています。

パラオでは初日にアンガウル島に渡り、夕刻ペリリュー島に戻って宿泊、翌日はペリリュー島内を見て回りましたが、飛行機が空港に着いたのが午前1時ごろで、ほとんど一睡もできないままボートに激しくゆられて気が遠くなりそうでした。

ところで日本は昭和18年に絶対国防圏を設定してからパラオの防衛を強化

していき、昭和19年には満州にあった第十四師団にパラオへの移動命令を出しました。特に有力な飛行場があった両島は戦略的価値が高く、米軍に狙われやすいということで、精鋭部隊を配属して5月ごろから守りを固めることになりました。

一方米軍はフィリピン上陸作戦の支援基地として両島に目を付けていました。フィリピンまでの距離が爆撃機や戦闘機にとつてちょうど良かったからです。

米軍は激しい砲撃攻撃の後、ペリリュー島は9月15日、アンガウル島は17日に上陸を開始したが、ペリリュー島では持久作戦に変更したこともあり、長く激しい戦いが続きました。当初米軍は3日で制圧できると考えていましたが、日本軍の組織的な抵抗は11月24日まで続き、そうこうしているうちに10月20日にはマッカーサーがレイテ島に上陸し、ペリリュー島の戦いは全く意味のないものとなったのです。しか



写真① 横倒しの米軍の戦車

し米軍はあくまで島の制圧にこだわり、憎しみが憎しみを生む狂気の戦場と化しました。

資料によればアンガウル島では日本軍の戦死者約1150名、戦傷者約50名、米軍の戦死者260名、戦傷者1354名、また、ペリリュー島では日本軍の戦死者10022名、戦傷者446名、米軍の戦死者1684名、戦傷者7160名となっています。

写真①は日本軍が最後まで抵抗した海拔100メートルほどのいくつかの岩山のふもとに横倒しになっていた米軍の戦車です。ガイドさんの話では、

横倒しになるくらいなので地雷ではなくて、機雷をしかけていたのではないかとのことでした。脇に建てられた金属製の銘文によると4名の海兵隊員が亡くなったようです。

### ゼロ戦

さて、3日目はパラオ本島で最も大きく、首都や国際空港のあるバベルダオブ島の戦跡を回りました。

写真②は同島の丘陵地の草原に横たわっていたゼロ戦です。

自動車を降りて草原を歩くこと約1時間。日本であればあたりはスキだらけといったところですが南国ですので、見たこともないウツボカズラの群生に気を取られながらの山歩きでした。

現地でいただいた資料によると、このゼロ戦の経緯は長らく不明でしたが、68年後の平成24年に調査の結果、昭和19年3月31日のパラオ大空襲の際に撃墜された島原市出身の方が操縦されたゼロ戦の機体と判明したそうです。プロペラと尾翼を赤く塗っているのは、草原で見つけやすいようにしているものと思われま

### おわりに

これまであちらこちら戦跡めぐりをしてきましたが、悩みが一つあります。それは費用の問題です。家族や友人を誘っても全く相手にしてもらえませんが、10人乗りのボートを一人で貸し切ることもありその分費用が高つくこととなります。参加人数が増えれば一人当たりの費用は安くなるはずですが、今後も旧満州など行ってみたいと思っております。ご興味をお持ちの方、ぜひご連絡ください。



写真② 丘陵地の草原に横たわるゼロ戦